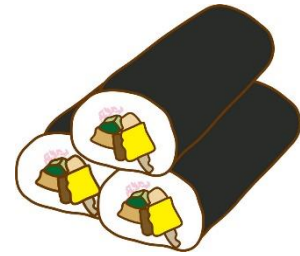


## 食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第19回 2019年12月)



端っこが好きである。

テーブルに着く時は端の席を選ぶ。部屋の中にいる時もできるだけ隅の方へ行く。電車に乗った時も、いつも車両のいちばん端の席を目指していたのだが、いつからかそこはシルバーシートになってしまい、座れなくなった。ふさわしい年齢になったら思う存分座ってやるぞと年を取るのを楽しみにしている。

もちろん食べ物においても端っこが好きだ。羊羹もロールケーキもハムや焼き豚も巻き寿司も豚カツも端っこをいただく。食パンも端っこをゲットだ。焼き立てパンの店で食パンをカットしてもらう時、「端っこも入れて」と言わないと抜かれてしまうことがあるから要注意だ。たまにパン屋で端っこだけを詰めた袋が超安価で置いてあったりするが、それを見つけると天にも昇る心地になる。もち即買い。



どうして端っこ好きになったのか考えてみるに、小さいころから親に「食べ物は皮と本体の間がいちばん美味しいんだ」と言われ続けたことが影響しているかもしれない。「皮と本体の間」という表現はあやしいが、確かにリンゴなど皮をむくよりついたまま（よく洗って）かじる方が美味しい。じゃが芋やさつま芋も皮つきのまま焼いた方が断然美味しい。鶏肉も同じだ。鮭や鯖などの魚では、皮のすぐ下のところの身が美味しい。

パンの端（耳）が美味しいことには科学的根拠がある。かまどで焼くとパンは外へと膨らんでいく。食パンは直方体の型に入っているなので、それ以上の大きさには膨らめず、型に近いところほど後ろから押されて密になる。密度が高い上に焦げているのがパンの耳の部分だ。お焦げの美味さは誰もがご存知のはず。

サンドイッチを作るときわざわざ耳を切り落とすのがもったいない。食いしん防が子どものころは、母親が切り落としたパンの耳を揚げて砂糖をまぶしたおやつを作ってくれた。激ウマだった。回転焼き（今川焼とか様々な名称で呼ばれる）の合わせ目からはみ出た部分はていねいに切り落とされて売られるが、端っこマニアには余計なお世話である。あの切り取られた部分が食べたいと思っていたら、甲賀のとある回転焼き屋でこの部分だけを袋に詰めて置いてあるではないか。しかも「ご自由にお持ちください」！この店主を表彰してあげたい。



今いちばん食べてみたいのはバウムクーヘンの端っこだ。特に「たねや」の。聞けば



あそこは貴重な端っこを豚の餌にしているというではないか！ 食いしん防は妖怪人間ベラ似の奥様に「たねやの工場でバイトしてくれないか。そしてバウムクーヘンの端っこをこっそり持ち帰ってくれ」と頼んでみた。「そんなに食べたきゃ自分で行け！」とシバかれた。豚舎へ運ぶトラックを襲って

強奪しようかと考えたが、こんなバカなことで捕まったら末代までの恥となる。悔しいからバウムクーヘンを食べて育った豚肉を買って食べてみた。美味しくて涙が出た。

食いしん坊の大好物の一つにコロケがあるのだが、あれは端っこ好きな人が考案したに違いない。だって芋にミンチや玉ねぎを混ぜただけでも十分美味しいのに、なぜわざわざ衣をつけて揚げるのか。理由は「端っこ感覚」を加え



るためとしか思えない。コロケはどの部分を口にしても、端っこを食べる気分になれるのだ。同様の食べ物にラスクがある。宇治の「たま木亭」というパン屋で売っている「こげぱん」はラスク界の最高峰だ。



端っこ語るといくらでも熱くなれる食いしん坊。長らく我が家では端っこを独占状態だったが、末の娘も「端っこ好き」であることが判明した。食卓では毎日、私と娘の間で端っこの激しい争奪戦が繰り広げられている。

## TOPICS



### ☆秋は出前講座の季節？

先月の防災運動会に引き続き、11月17日に池庄町でDIG（災害図上訓練）が行われ、食いしん坊もお邪魔させていただきました。

プロジェクターが映らない！というアクシデントに見舞われ、冷や汗をかきながらの出前講座となりました。実は5年前にもやらせていただいていたんですね〜。「その話は前にも聞いた！」と責められたらどうしようとビビっていたのですが、池庄の皆さんはとてもやさしく、とばしたギャグにもちゃんと笑ってくれました。前回の課題だった自主防災組織も立ち上げられ、着実に前進していることを強く感じました。



翌24日には防災マップ作りのお手伝いで小田苅町へ。開始時刻を間違えて遅刻するという大ボカをかまし、冷や汗ダラダラの出前講座となりました。

小田苅では3年かけて防災マップを作る計画を立てていて、今年が最終年となります。前回までは地震を中心に危険箇所をチェックしていましたが、今回は風水害をテーマに、5グループに分かれてまち歩きをしました。ここは低い土地が多く、第三小学校とお宮さんを除くほぼすべての場所に冠水の危険があります。中には水位が1メートルを越える危険のあるところもあり、伊勢湾台風のときに一面が水に覆われたのを体験した人の話に、参加者は水害の恐ろしさを胸に刻み込んでいました。

## ☆こと防第二小ブロックが勝堂町を見学

湖東地区防災ネットワークの第二小学校ブロックが、今年度2回目の活動として、勝堂町の防災施設見学と減災への取り組みを聞きながら、情報や意見交換を行いました。勝堂は各種補助金も活用して毎年計画的に資機材を購入し、訓練も定期的に行われています。

参加者の注目を集めたのは、防災倉庫に設置されている「救助工具セット」。車輪がついて持ち運びできるボックスの中に、油圧ジャッキ・ハンマー・斧・ロープなどの救出救助用工具が入っているすぐれモノ。「こういうのが必要なんだよなあ」という声が上がっていました。他にも発電機や照明具を自治会行事に活用しているという話に感嘆しきりでした。



## 今後の活動予定

- 12月 1日 横溝町DIG出前講座
- 11日 災害支援市民ネットワークしが研究会

## 勝手にQ&Aコーナー

Q：冠水の危険に対して、どのような備えができるのですか。家の周りに堤防を築くとか？

A：とにかく風雨のひどい時は絶対に家の外に出ないことです。1メートルを超える浸水の可能性がある場合は、2階に避難を。平屋建てでしたら、雨が振り出す前に安全な場所に避難してください。

Q：12月は1年の端っこですが、やっぱり好きですか？

A：クリスマスは好きですが、大掃除はキライです。

楽しい質問、お待ちしております！

